

令和4年度 校内研究

I 研究主題

教科等	研究主題
国語科を 中心に	主体的・対話的で深い学びの授業の創造 ～ 学び合い、聴き合い、つながり合える児童の育成を目指して ～

II 主題設定の理由

本校では、校訓を「**ひ**ろい心で助け合う子（徳）」「**え**い知を出して考える子（知）」「**い**しが強くねばり強い子（体）」とし、今年度より「つながり、学び合う～全ての子どもの学びを保障する学校 一人一人を大切に～」を学校教育目標に掲げている。また、それらを具現化するために、目ざす子ども像には『話を聴く子』『つながり』『課題を』を設定した。

前年度までの研究の反省から「聴く・話す・読む・書く」力の弱さに加え、「自己肯定感の低さ」も依然として低いことから、研究テーマを『主体的・対話的で深い学びの授業の創造～学び合い、聴き合い、つながり合える児童の育成を目指して～』とし、授業づくり・学級づくりを通して、子ども達同士がつながり、子ども達と教材とがつながり、子ども達の考えと考えがつながっていくような場の設定をすることとした。

III 研究内容

○学び合い、聴き合い、つながり合える児童の育成を目指した授業づくり

- ・教師発信とならず、子ども達同士が互いに「聴き合う」風土づくりをメインとした授業作り
- ・モジュール時間を使った「読む」活動…精選された読書本
- ・モジュール時間を使った「書く」活動…低学年ではテーマを決めた「ミニ作文」、中学年以降では新聞などの読み物を使用した「要約」に取り組むことで、自ら考え、読み解き、まとめ、書くスキルを身につけさせていく。
- ・扱う教材は、幅広く取り扱い、教師も子どもも共に学べる教材の研究を進める
- ・個人思考➡ペアワーク➡グループワーク➡全体共有へとつなげていく中で、一人ひとりの子どもが「発言できた」「参加できた」と充実感を味わえる授業作り

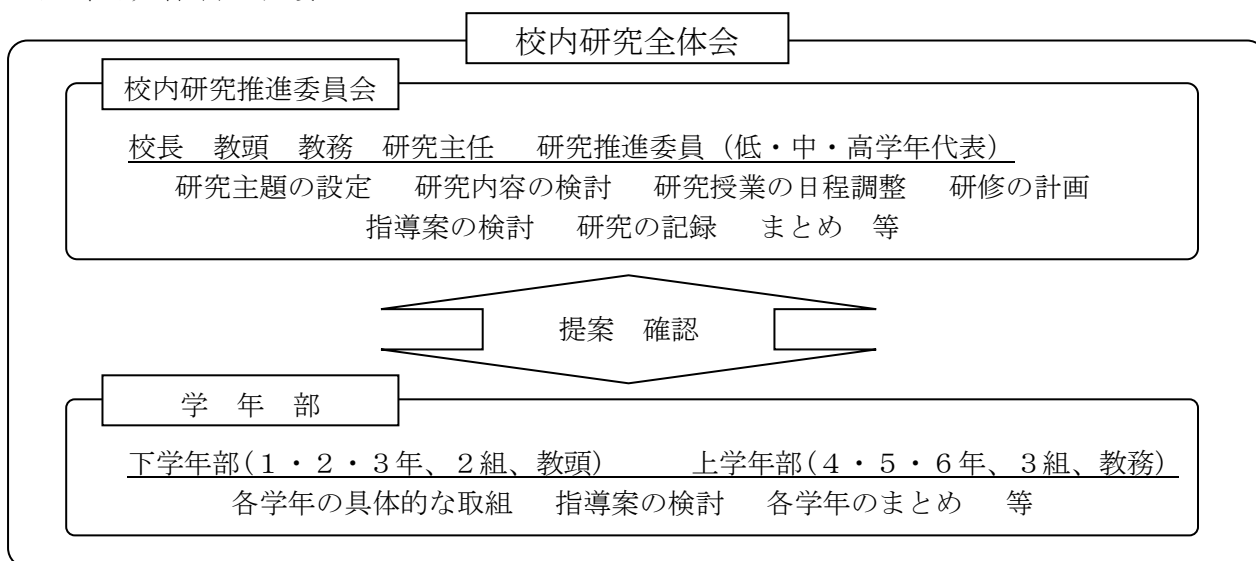
○自己肯定感向上に向けた学習基盤の創造

- ・学習ルールの徹底（聴き名人、話し名人、机上の物の置き方、学習の用意、傾聴の5ポイント、ミニノートの活用（的なもので**縦**横の関係を強化））
- ・主体的に取り組み、子どもたちの自信につながる自主学習の追究（自学の徹底）
- ・安心感のある雰囲気づくり（クラス会議、ほめ言葉のシャワーなど）

IV 研究・研修計画

月	校 内 研 究	職 員 研 修
4月	研究推進委員会（1日：研究概要・運営の確認） 職員会議提案（27日：児童の課題整理 研究主題・研究内容・授業日の設定） 校内研究全体会（20日：研究の骨子説明）	
5月		特別支援研修（30日）
6月	研究授業① ・全体授業研究会（14日：4年）	特別支援研修（20日）
7月	研究授業② ・全体授業研究会（8日：2組3組・児童理解） 研究推進委員会（6日：1学期の取組まとめ・2学期の取組検討）	
8月	全体研修会（25日：全国学学調査結果分析&学ぶ力向上策検討会） 全体研修会（26日：協働的な学び検討会）	いじめ対策研修（3日） ICT研修（26日）
9月	研究授業③ ・全体授業研究会（21日：5年）	
10月	研究授業⑤ ・全体授業研究会（5日：3年）	
11月	研究授業④ ・全体授業研究会（1日：1年）	
12月	研究授業⑥ ・全体授業研究会（1日：6年）	
1月	研究推進委員会（日：2学期の取組まとめ・3学期の取組検討）	
2月	研究授業⑦ ・全体授業研究会（15日：2年） 研究推進委員会（22日：年間の取組まとめ） 校内研究全体会（29日：研究のまとめ・次年度校内研究について）	
3月	校内研究全体会（15日：研究紀要づくり）	

V 校内研究体制の概要



VI 過去5年間の研究主題と指定研究歴

平成29年度 『確かな学力』の定着に向けての授業改善
～認め合い、支え合い、学び合う授業の創造～

平成30年度 子どもが主体的に探究する授業づくり
～地域とともに、子どもがより深く考え、支え合い、高め合う授業の創造～

令和元年度 子どもが主体的に探究する授業づくり
～地域とともに、子どもがより深く考え、支え合い、高め合う授業の創造～

令和2年度 情報を読み解き、豊かに表現できる子どもの育成
～自分の思いや考えを『書く・話す』ための系統的指導の追究～

令和3年度 情報を読み解き、豊かに表現できる子どもの育成
～自分の思いや考えを『書く・話す』ための系統的指導の追究～

<研究指定歴>

平成25年度～27年度 滋賀県教育委員会指定 学力向上アプローチ事業（理科）